母校に学ぶ在校生諸君、遠く都

十一号もお送りしたい。

会の事務局へ早々に住所をお知ら

れたひ弱な感傷からなどではな

上げ、続きしたい。

部大会が開催される。明春卒業さ

も若やいだ和やかな会合である。

諸君の張切った御協力を切顧申し 会や名期代表幹事も数少い。若い 対容するが第七十期以降の同期

六文銭と校歌うずまく会場風景一第2部懇親会より

五郎

集委員会で企画された。

在校生諸君へのよびかけも編

い。しかしその会合には、明治、

た感である。

各期毎の同期会はそれぞれに盛

は大切なことである。

一大集会であるかも知れな

年にわたる数多くの諸先輩方の御

努力によって、ようやく地につい

において多くの人々を相識ることにおいて多くの人々を相識ること

く如く散会してゆく、正にその通 歌、凱歌を高唱しサーッと潮の引 だろう。年一回ワイワイ集って校

諸君の中には卒業し関東地区に

を学び過した回想と、古城の門の 同窓生もいる。同じ学び舎に青春

結によって、各運動部のOB会、 んであり、更には、先輩後輩の団

出身地区の同郷会、同一職務にあ

たちの先輩の多くが、そこか

飛立ち、視界を更に拡げた時、

立ち、視界を更に拡げた時、君職業に就き社会人として一線に

頑張って高校生活を悔なく送 に大活躍していることに気付く

る者同士の会合等々も盛会に楽し

在校生諸君

(31) 矢島

進出される人々や、

他地区へ向う

へ々もあろう。しかし他地区への 署もいつか<br />
長い人生<br />
航路のうち

しく強烈に甦える。会場内の誰と

支部長

たい。関東支部の結集は大きく各

れには贅成である。だがしかし同 と大先輩方は云っている。

先輩と知り合

を仰ぎ、千曲の清流に育まれた青

ふるさとの鳥帽子、太郎の山峯

じみた文意になり、在校生諸君の一気に書き綴り、また少々説教

眷の想い出は、<br />
関東支部の<br />
諸会合

東支部の現況をお伝えしつつ、今回を記念が、誠心誠意、君たちに関いる。

東支部の現況をお伝えしつつ、

後の交流を願った次第である。

とを記憶に止めておいていただき 同窓会関東支部なるものがあるこ こもある。その関東には上田高校 には、関東に住う人となり得るこ

始めてくれている。同窓大会は年 ある。女子同窓生も楽しく出席し も気安く語り合えるのも不思議で

回のお祭りだ。それでいいのだ

り、同窓大会が契機となって生じ

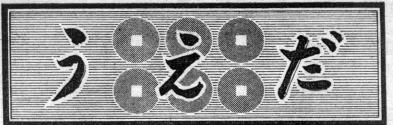
それも関東支部の確立が礎とな

てきた各会でもある。

とは男女共に君たちの人生に大き

在校生諸君、明年六月下旬には

の中に息づき、ふるさとの方言が



**製上田高等学校同窓会関東支部会報** 

11月25日

1978

(昭和53年) 季

で盛大に開かれた。

る。オールドボーイの人気を一 の女子同窓生が数名参加、並みい の四月には母校を卒業したばかり とを反映してか、今大会には、こ

れた竹内本部理事、新津現校長を はじめとする来賓各氏も壇上に整

また遠く上田からかけつけてく

後五時より、東京の農林年金会館

七回大会が、さる六月二十三日午

百余名がつめかけ、あちらこちら

時から柳沢幹事長の司会で始まっしびた。続いて支部発展に答与した

第一部の定期総会は、定刻の六

列して紹介され、大きな拍手を浴

上田高等学校同窓会関東支部事務局

発行人矢島編集委員長清水編集長村田 埼玉県川口市並木2-五幾 -11-矢島鋳工㈱内 0482—53—2662(代表)

題字は故稲垣征夫氏筆

### 第17回 関東支部大会開

\*大先輩』諸氏に感謝状と記念品 けさせるということでした。 子内の広告を二十一か二十二 そこで、今後は、各期が一万

母校に女子学生が増えていると一た。議事に入る前に新役員の紹介

があり、矢島五郎支部長が、新役

致で承認された。続いて、OB の順で進められ、いずれも万場一 事)、監查報告(馬場長市監事) 長)、決算報告(牧内操会計論 そっくり受けもってもらうこと は三十六期が受けもつことにし を提案しまして、先ず、隗より

会、同期会、同好会などの各部会 案が柳沢幹事長から提案され、こ を一層充実発展させること、及び ことを骨子とした新年度事業計画 会報の第20号を記念特集号とする れも全員の拍手で承認された。 愉しむと同時に、新たな絆をしっ で、ひたすら飲みかっくらう者。 プルで一くさり演説をぶつ者とさ まえて離さない者、 握手握手で顔見知りの人間をつか

若年層のテー

同窓会)、吉岡敏郎(野沢北高校

同窓会)、小沢肇(伊那北高校同

窓会以上各氏。

事)神林徳治(上田千曲高校同窓

ていますので、十五年間は生

頂きましても、

広告の原稿を集

会)、篠原育男(臼田高校 同窓

会)、依田八治(北佐久農業高校

年代別に設けられた円草の周囲 なお、当日の来賓及び会の発展

て、世良田進先輩(第八回卒業) あとはもう、文字通りの無礼構 に寄与して表彰を受けた人々のお

〈来賓〉 新津学校長、柳沢宏先 生、高柳厚先生、柴崎章雄、水野

竹内敬太郎(以上本部理

心から在校生の諸君へペンをとっ

さて、しからば同窓会とは何ん

の大先輩を始めとして、住所分明

現在関東支部には第四回卒業生

巣立ち来る君たち若き在学の後

人生の途を力強く進みたい念願の諸君を、大手を拡げて迎え、共に

者の会員は三千二百有余名いる。

支部の確立や会報の発行等、永

土台でもある。

井実雄(28)尾台三吉(30)。 場長市(公)酒井諭一(名)、坂 柳沢正春(22)大森頼雄(23)、馬

**〈竹内敬太郎本部理事〉** 吉井道教(20)、島田次郎(21)

〈支部発展に寄与した人々〉

一ハンドボール、庭球、陸上はそれ リット』を発揮している。とくに う、勉学にスポーツに、上田スピ する。在校生も伝統をけがさぬよ いるし、サッカーは県大会で優勝 野球は甲子園をめざして

創立80周年、本部では記念碑及び 所の建設等、多彩なる事業を計画 資料の収集、 記念館の建立、名簿の発刊、校史 している。関東支部の協力をぜひ 〈新津学校長〉 在校生のための合宿 お招きに感謝 ぞれインターハイへの出場権を 徒のうち三〇パーセントを占めて いるが、今後ともしっかりと見守 おり、雰囲気も昔とは違ってきて 得した。また、女子生徒が全校

も今後生ある限り、微力を尽した 沢山いる。そういう方々のために 一十年、まだまだとの会を愛し母 いのに表彰とは……。会ができて 〈吉井道教氏〉なにも功績がな 一回広告を引き受けて頂けれ 広告部からの 広告部長

従って同じ人にのみ、負担をか 出して穴うめすることが多く たことは、広告が足りなくて、 告部長を仰せつかって感じまし

何時も同じ人に、無断で広告を

とは、全く立派なことだとし

だが二十号にもなるというこ

郎と在郷三六会々長折井正彦の

もう一度広告を出すことになっ 広告を出した者は、十五年後に 配がなくなります。三十六期の 十五年間は広告の面では心 期が現われますようお願い申し 次に広告をお引き受け下さる同 っています。各期の連絡、

は

御骨折りにより、二十一人が心 ら、十五年間にそれぞれの期が よく引き受けてくれました。 三十期から六十期までです 一年二回発行の会報ですか 々がお引き受け下さることにな 方々が、そして二十二号は三十 九期、二十三号は四十六期の方 で次回二十一号は四十七期の

(36) 伊藤東四次郎

我が上田高校同窓会のモッ 時間のある奴は時間を出せ 知恵のある奴は知恵を出せ 金のある奴は金を出せ

アサヒビールに情熱のすべてを傾けたいのです

人変な事です 大変な事だからやりたいのです

命が保障されたことになりま めるまでには、少くとも、 い申し上げます。卒業期十年、 御申し込み下さいますようお願 で御相談下さいまして、 は要しますので、それぞれの期 何号を受けもつかきめて頂いて

年というようにそれを記念にお 出し頂くのもいいんじゃないか 一十年、三十年、四十年、五十

あたゝかい 人間味で溢れさせたいのです 銘柄も品数も少いかも知れませんが 酒類·煙草·食料品·調味品

ビールは一つの銘柄

思う事はたやすい事です

はげまし、叱り、そして後押しをたのみます

東京都新宿区四谷二の

二十六期 五〇三五 五〇三五 東四次郎

日本の伝統文化を守る

### 景 神

野 勝 (36期) 男

> 船橋市前原西 2-32-15 0474-74-0 5 4 3

誠実、思いやりの少い事は恥かしい事だと思います 店の小さい事は恥しいとは思いません 小さな店です

てれ歩み築いてこられた貴重な人 饒造を何らかの形でうち破って、 生体験を、機会あるごとに在校の **恒集される先輩の皆さんが、それ** は時期でもあります。関東支部に 人立ちが出来るようにする大切 青年期は、疾風怒涛の時代とい

県東信地区連合会

篠原

育男

和の勝利 ばらしい 県高校同窓会東京連合会

野において中核となって活躍され

ている方も多く見うけられます。

会報「うえだ」の二十号、記念

部の皆様が、大変な努力を重ねて するとともに、今後の一層の発展 このような偉大な業績を残された 関東支部同窓会の会報「うえ 母校から祈る が、今回、二十号を迎えられ 校長 新津 真澄 の発展を 学習にも一層の力が注がれ、上田

るのか考えてみましたが、との同

な立派な会報がどうして生れてく

種の会報で二十号にまで達したと

ー校は数十校に及びますが、この

よくいえば理想家ハダの点。第二

に独立自尊の気概が強い反面郷党

の団結に欠けているようです。 だが、今日の激動の社会に対処

高校同窓連東京連合会のメンバ

ころはないと思います。私はこん

窓会にして、この会報ありという

ず一人の力では足りない、政治も するに当り私たちは何ごとによら

化らんに「成人式ー子供世界との であった。桃太郎の心の中の鬼ケ あさんに大事に育てられた甘えっ き話に託して、おじいさんとおば 士の桃太郎は、子供社会と決別す **好別**ー」と題して、
桃太郎のおと 金沢大学工学部長の小松周吉先 ぎる同窓連づくりを進めていきた

いと考えております。 て今後益々発展するようお祈りし 「うえだ」が二十号を節目とし

井

道

教

の前後の若い幹事の爆発的熱意の

で、松尾法友会第一回の会合を持

過去に、旧制上田中学および上

かけがえの 同窓会

地区連合会一同とともによろこび 発行を長野県高等学校同窓会東信 も推測されています。中央で各分 東京在住信州人は現在八十万と 「うえだ」第二十号の記念

ラブが、新しいチーム作りに専念 関心を寄せながら、情報蒐集に努 従前の進路決定とは様相が異なっ めております。また、生徒会の活 ストが実施されることになって、 高校独自の秩序と静けさが保たれ の入試改革といわれる共通一次テ ております。しかし、国公立大学 練習や研究に情熱を燃やしてい

が大きな力となっています。 ことがわかりました。 あると思います。そのうえに、同 同窓会づくりに努力している点に 丸となって、和のみなぎる楽しい れ、会員相互が母校愛からくる強 が会員のなかにいきいきと生かさ 窓会をぐいぐいとひっぱってい 烈な連帯感で結ばれ、みんなが一 高校同窓連東京連合会も、賃校

> あたたかい情愛が伴っているのは れている人間的連帯感の絆です、

会であってこそ存在の意義があり

同窓会は可能性の開花を助ける

たり、関係者各位の永年の御努力

会報「うえだ」二十号発行に当

昇降口、渡り廊下等が二年計画で

に心から敬意を表し、今後の御発

るのが同窓会です。血は水より濃

母校の改

着々進行中

教室が三階建で完成した。今年は

同窓会館の修理が予定されている

本部同窓会理事長

に加え、同郷ということでも結ば

れます。そんな時何より頼りにな

い協力の手びきや足場が必要とさ

商いも事業も、人とひとの結び合

だ」に期待するものが多々ある次

十三年(一九〇〇年)四月一日で

あるから、校舎の老朽するのもや

中学支校から独立したのは明治三

長野県上田中学校が長野県長野

むをえない。改築が進行し、昭和

五十一年八月普通教室八教室、五

り、発展もあります。会報「うえ

ているだけに、同窓会の役割もあ す。今の教育の現実は問題にみち

たからであると興味深いエッセイ

ことを振り返って見ると、随分昔 制も内容も未だ整わなかった頃の たるものではなく、不備な名簿を とのようでもある。幹事会なども のようでもあり、又つい最近のこ

同窓会が関東支部としてその体

たどって案内を出し、集って来る

の統轄運営には極めて熱心で、ご

もいないが、同じような職種を持

るまでに至らず、自然消滅のよう

の会合を持たれたように聞いてい るが、それも定期的な会合を重ね

の業務にたずさわる方々が同趣旨 察官などの法曹関係者や法律関係

な格好になっていたようである。

多数幹事の取り纏め役たる幹事長 心的存在は、現在の支部長である

はその指導的立場において活躍さ

しては後に三代目支部長となられ 陽に支部長を援けて居られたよう に見受けられた。なお副支部長と

て(8)勝俣稔先輩があり、陰に 水菊三先輩であった。又顧問とし は、二代目支部長に当る(7)清 り、会食懇談して解散する程度の一たことは、会合の日が何か他の行 私が最初出席した当時の支部長 みるみる整備充実されていった。 同窓会を第一として他を断るのだ た。それ程に熱心なで両人が中心 とのことであった。またそれが何 れたのだから、会の体制も運営も に坐って専心、会の発展に努力さ よりの楽しみだとも云って居られ 事などとかち合った場合でも必ず

あった。また在京の長野県各高等 ある時期非常に憂慮されたことも 学生運動の暗しかったころは、特 表され、また意見を求められた。 あった。母校の情況については物 心両面にわたり、常に深い関心を 母校との連絡を重視されたようで 清水支部長は当然のことながら

会としてもこれを基調の考し展を期待するとともに、この機会し、上田高等学校は昭和五十五年で一与をお願い申し上げる。 である。御手元にある史料の御貸 る。校史発行のため史料を募集中 した名簿の倍頁に達する見込であ を見た原動力は、蓋し彼およびそ あった。それ以来彼は名実ともに 長に就任したのが彼矢島五郎氏で 関東支部の急速なる発展と充実

法曹関係OBに呼びかけ

より新橋の新橋亭(中国料理店) 昭和五三年六月二日、午後六時 に会し、仕事を通じてそれぞれのに会し、仕事を通じてそれぞれのに会し、仕事を通じてそれぞれのに会し、内の公職を持ったりする、いわゆる職能別的な集まりも意味あるものと思う。
当日は矢島五郎支部長がわざわざお祝にかけつけてくださった。当日は矢島五郎支部長がわざわざお祝にかけつけてくださった。当日は矢島五郎支部長がわざわざお祝にかけつけてくださった。当た祝にかけつけてくださった。当日は矢島五郎支部長が高くいる。今後連絡体制をしっかりさせていくため、幹事(連絡係)として棚沢厚先輩(三し一回生)、市川 渡先輩(四四回年)、市川 渡先輩(四四回年)と岩井(六二回生)の三名を央めた。

朝 日 新 聞 日本経済新聞 読 売 新 聞 サンケイ新聞 毎 日 新 聞 茨 城 新 聞

### 大甕新聞販売所

松 島 久 (36期)

日立市水木町2179 TEL 久慈 浜 2508



校がある、東京地区に各同窓会を持つ高校もあり、現在約七

号記念県下高等学校

地区に分れた地区連合会があって、 連絡 親 交も 重ねてい 余校の加入参加による長野県高等学校同窓会東京連合会と

◇東信地区19校◇ 小諸市上野岸 佐久市岩村田 市佐久郡昭日田町 南佐久郡田田町

**商泉女学院** 

を済ませ、秋の深まりとともに、

号に衷心より敬意を表するととも一の短所は修正されていないようで

在り方にすべきと思われま | に母校改築の進行についてお知ら | 創立八十年に達するので、祝賀会 | 窓会名簿の発行、(二)上田高等 記念会を造り、事業推進に着手し 会を中心に、P・T・Aと学校の 門、土塀、外堀の改修工事(四) 学校校史の発行、(三)学校の表 を盛大に挙行したいと考え、同窓 祝賀記念事業としては(一)同

| 公会 | 上田松尾高等学校同窓会館の建設 | 等の支部も支部自体のことに専念の上田高等学校 に改名する運動 | つきを見るようになったため、我と窓 の上田高等学校同窓会館の建設 | 等の支部も大いにあったと思う。 | 大いに協力され 出来るようになったと思う。 | 大いに協力され 出来るようになったと思う。 | 一貫して変らないものは、同じ母 | 小両面にわたり、直接、間接に協 | 校に育まれた同窓会員同士の、友 | 積と母校愛から生れる自然の活動 | であると思う。上田高等学校同窓会館の建設 | 等の支部も支部自体のことに専念 | 人両面にわたり、直接、間接に協 | 校に育まれた同窓会員同士の、友 | 「世校変から生れる自然の活動 | であると思う。上田高等学校同窓 | 「世校変から生れる自然の活動 | であると思う。上田高等学校同窓 | 「世校で育まれた同窓会員同士の、友 | 日本のであると思う。上田高等学校同窓 | 日本のであると思う。上田高等学校同窓 | 日本のであると思う。上田高等学校同窓 | 日本のであると思う。上田松尾高等学校同窓 | 日本のであると思う。

◇南信地区26校◇

東筑摩郡本郷村 伊那郡箕輪町 松本市里山辺

松本市笹部

長野市箱清水町 長野市上松 上水内郡中条村 須坂市馬場町

中野市中野小館長野市妻科町 篠ノ井市御幣川 長野市屋代 東埴市屋代 明市屋代 松本筑摩

松本美須々ヶ丘 松本市美 松本深志 松本市蟻ヶ崎 松本県ヶ丘 松本市大字筑摩 南安曇郡豊科町

松本市県 北安曇郡白馬村南安曇郡豊科町 木曽郡南木曽町 **南安曇郡穂高町** 温尻市広丘高出

北佐久郡望月町南佐久郡小海町

### 茅ヶ崎歯科

(歯科一般)歯列矯正

木 博 美 (36期) 木 秀 生 (64期)

茅ヶ崎市新栄町5-8 でんわ 0467-85-1821 と破ってそれなりの戦いぶりを示 工を五対〇、東海大三高を七対一

で一杯なのです。

やったと肩を叩いてやり度い気持

発表される花であるといわれてい 年間の練習の集約が作品となって

ます。然し甲子園のノック時間は

と平行に横一列に揃びカケ声と共

の基礎体力の不足と精神面の脆さ

有力候補の一角にあげられており

ました。事実、県大会の伊那球場

君も力一杯戦ったと確信しており の裏方や現場のご苦労、又選手諸

よく試合前のシートノックは一

深く印象づけたチームに初出場の

これと全く対象的に私の脳裡に

郡山北工があります。このチー

りに甲子園出場の夢を託した母校

長の堤先生が過労のため倒れ、代

気の付いたメモ帳を開くことにい

今夏、甲子園出場校の私なりに

高の監督さんの心境を思うと側隠

の情にかられるのです。

クをやらねばならなかった取手二 ック時間内により多くの外野ノッ 私には何よりも先づ、この短い

いに感ずるものがありました。部 居を緒にして青春の血を沸かし大

そのことはさておき、二十年ぶ

## 支部発足のころ

もなく、雑談が多かったが同じ松一お預りしております」との店内の 28

実

間の年代の違う者の集りはなごや

のは(10)宮入支部長の時だった こ思う。<br />
同窓会名簿を見ても当時 る様にするかが毎回の会合の話題 が私費と労力を投入して運営して 無だった事だ。従って役員の方々 になっていた。又会には基金が皆 を、如何にしてこの会合に出席す かなものだった。歴代の支部長の

載されていた。会合でも若輩だっ

居たものと想像している。

者から肺結核で相当進んでいるか

会員は皆偉らそうな方々ば

間も一、三時間で、これといふ議題一た時「マジック師の宮入さん鞄を一ってお聞かせ下さり、重ねて心配 博士であられたのですが、ある日 友会でも毎回同席致し良く存じ上 宮入(7)清水両先輩には上田郷 三越デパートで鞄を置き忘れられ の想い出を書きましょう。 各支部長の横顔について一、一 10 声高らかに「オオソレミヨ」を歌 処置してやるといわれ、院長室で もあるものだ心配することはない 余り気にするな。必要な時は俺が 位のレントゲンの陰は大勢の人に を訪ね診察を受けたところ。この

げた期間であったと信じている。

につけ悪しきにつけ生涯に基礎づ

ったと思う。中学時代は平凡な五 かりだった。でも出席率は良好だ

> のかも知れない。会合の都度よく 入っていたのでこの仕儀となった はマジックの材料多数と聴診器が 呼出し放送が行われた。鞄の中に マジックをお見せ下った。 りも手品師の方が本業と思われた との話がある程、外目には医者よ 又私事ではありますが、

> > 大

者が来たので元の所有者に相談し 置いた。その後借金が返済出来な ら、その土地を欲しいと希望する いから担保の土地で勘弁して欲し のだが、是非との事でお預りして いてゆくという。必要ないという いとの事だった。何年か過ぎてか

うだ。 かったが、マンションを造ったそ では住宅に困って居る者が多いの とすすめられ、余り気もすすまな だから、アパートでも造りなさい 置していてももったいない。世間

で、需要が盛んで常時各室満員の があったので融通して上げたら、 欲しいとの申込があり、余分な金 都下に所有の土地を担保として置 盛況、暫くすると旧部下だったか 当時はマンションの走りの時代

欲い。 たことは、ほんとうに嬉しい。

て、母校との連絡が繁くなり、昭

和2年春ごろから北島修一郎校長 母校の火災復興がもとになっ

居たが、知人が広い宅地をただ放 の利益をもたらすものだと次の様 話をされた、私は老人になり、 話しをされた事があった。

ることはないと慰めて下さった

たこれからも着実に成長を続けて 会報うえだが第2号まで成長し

たところ、お世話になった代償な り込んだものだと他人ごとの様な ったので希望者にお分けした。貸 のだから閣下の御自由にとの事だ て呉れた。全く夢の様な大金が転 金の何十倍かの価格で引取っ 稲垣先輩は満州の大人であり、 下さったりしたものだ。 か、会合の御挨拶には毎回時事問

機関紙に御自分の論文を御寄稿に だった。また先輩御関係の会社の まぜてお話し下さった事が印象的 題等を取上げ御批判と御意見を取 なり、その小冊子を御持参御披露

興について話合われ、同窓会の強 サックを背負って、よく上京され い協力支援を求められた。 (10) 宮入清四郎先生を中心に復

宮入先生は自宅を提供されて、 なったものである。当時は木材、 復旧等の工事を実施させることに

と竹内敬太郎先生が大きなリック一のことである。皆様のご協力によっお得意先であったわけである。 まで心の余裕が持てなかったころ 校云々といっても、まだまだそこ が定まらないころだったので、母 時代は続いており同窓生への連絡 であったが、まだまだあの混乱の 毎月一回対策を練ろうということ がとれない。また各人の生活自体 札に参加したこともあったのであ と仲間になって工事取得のため入 る。その点では上田高校は運建の は各省各自治体からの委託工事で 鋼材、セメント等建設資材が払底 し、強い統制下にあった。大部分

急の修理工事から当面の校舎の復 校名も上田松尾高等学校となった とができた。それで昭和23年から 官会議できめられたもので、海軍 は昭和20年終戦の翌日の各省の次 は生徒は皆学校に戻って一緒に授 また偶然にも私が運輸省運輸建 運輸省運輸建設本部、通称運建

職員とが合併して、海軍所管の資 うって、できる限りのご案内をし

出席を得て大成功裡に終ったが、 談、手品に喝采し、よく歌い、よ の案内状をみると会費金30円ただ その後引続いて活発な活動を続け いただいたのであったが、その時 文介氏 (18回) の格別のご配慮を 時機尚早の感が深かった。 る。そして(10)宮入支部長の湯 しお弁当は各自ご持参下さいとあ それから10年、昭和34年4月に 豊島園に場所を選んだのは遠藤 世相なお混迷が続き、

球友会OBの諸兄、殊に十二回の 十年が大いに期待される。各位の を迎えた。まことに感無量、次の それからまた10年、ここに二十号 で応援に来られた柳沢幹事長さん で健斗を心から祈る次第である。 たれた。それから10年、昭和44年 同窓会東京支部大会が盛会裡に持 には会報うえだが創刊された。 九段会館において第一回上田高校

合成繊維濾過布製造販売



15 医蒙式会社

有難う存じました。馬場会長と共 支部長さん教え子のKさん本当に を載きました小林副支部長、矢島 会が終了してからもなお、御援助 そして水科正、沓掛之祗さん、大 卒業であられる松岡栄一大先輩、

に厚く御礼申上げると共に今後の

〒530 大阪市北区芝田町 5 7番地 (西阪急ビル7階) 電話大阪 (06) 372-9131 (代表)

取締役社長 小林正登(36期)

TELEX 523-3287

工 場 東京足立、大阪八尾、 営業所 大阪、東京、名古屋、富山、福山、宇部、大分、

がすくないので持久力も残り、 弱い欠点はあるにしても比較的短 後半戦のスタミナがもたない。そ 時日の練習で仕上げ易いし力投型 こえくると下手投げは左打者には ご工夫すれば長打を喰わない球種<br />
た。<br />
日校の野球を見たいが職責の 本勝負の勝ち抜き戦ともなると と同期の四九回卒業の同窓生でし も立入らないという公正な立場を 手前、母校の試合中はその球場へ はからずもプロ審判の丸山博さん う人がおられました。深沢さんは 務められた方に深沢昌美さんとい 今夏、県大会に於て審判部長を はなれてここにも活躍されている 同窓生がいることを心強く感じま げましたが誠に温厚な仲々の人物 について少々凝念に思っていた事 られました。その際、私が予てか で流石、母校出身者であるわいと 柄を色々と不躾けながら質問申上

を会得出来るということ、従って 高校三年間で甲子園向きの投手を

を二対一で退け初陣を飾りまし ました。郡山北工は強剛、松山商 引上げたこの数分間、実に鮮やか にならび一礼してダックアウトに されて語る言葉もなく見とれてい で然も清々しいノックに私は魅了 すると選手は次々と再び最初の線 \* 母校の野球部が夏の甲子園大会 で期待も大きかった今年の夏、

点を残したこともまた事実でしょ

私も今夏は選手諸君と数日間起

神面を大きく左右する重大な要素 指導者の態度そのものが選手の精

であると私は思っています。

いられない多くの問題点や、疑問 感激の甲子園」と浮かれてばかり 野球夏の大会も選手諸君の真摯な

甲子園予選の反省

32

礼

風向は経験のない外野手にとって

の連繋プレーが終ってから内野の

取手二高のノックは監督、コーチ が先づ外野からはじめたのです。

大会初日の第三試合に登場した

ったのです。レフト線際のフライ

洛ちると打ち込まれる恐れが多分

ない一つの流れなのでしょうか。

舎へわざわざ挨拶のため尋ねて来

の投手が多くなる傾向は止むを得

かかる上に、この投手は力投型が

育てようとすれば必然的にこの型

守られた人柄で、一夜、奥様同

少し疲れてスピードが

からセンター、そしてライトのフ

ェンス際の高い球、外野手からバ

変難しいことであるのは<br />
論を待た 打球の行方を見さだめることが大

プレーに全国の高校野球ファンを

移した信州工との一戦に守備の乱

走り込み不足を感じましたが、後 だきました。前者は確かに一同の を指摘された反省のご連絡をいた

> 打球を追う姿を見てこのチー ないところですが、私は外野手の

穴は外野手にあると予想いたしま

フライを打ち上げて終了の合図。

如何にも選手のリズムを引き出す

初めは緩い球、次は早い球をと

様なノック。そして内野に数本の

がありましたが舞台を松本球場に 下降ぎみになっていて一抹の不安

夢は消えてしまいました。誰れも

が松本商業との決戦を期待してい

せん。高校野球にかざらずピンチ 易に結論を出せることではありま

われない外野手の拙守で三対一で

試合は好試合でしたが記録に現

岡山東商に敗れてしまいました。

に遭遇したとき選手よりもむしろ

の投げ込みをやらないと側球力が 下手投げ投手が何故、こんなに多 多かったといふことが一つです。 くなった理由を推測してみます 今大会は特に下手投げの投手が 上手投げ投手は可成り

44 柳 沢

分、こまがね一号にやっとの思い 予選第一戦応援のため、登山の若 者達で満員の新宿発午前六時五十 へ出場のチャンスありとの下馬評 緑がまぶしいばかりに美しかっ 睛。球場は真夏の日ざしを受け、 に到着。直ちに車で球場へ。

で乗り込み、その片隅に席を取っ 才)」を伴い、伊那市営球場へひ た私は「東京育ちの次男信介(25 たすら心を弾ませていた。 朝露がかわく頃、

ると先行しておられた中村礼三 された上田市営球場の陽光を思い た。フッと少年の日に毎夏、通わ (32期)先輩が笑顔で迎えてくだ 「やあ、ご苦労さん」我にかえ

さり、母校の野球部長に紹介され

くださるなど、大活躍。信介とは キー、おしばりなどを差し入れて その間、我々に弁当、"プッカ を遂一、母校チームにもたらし、 欲を燃やしておられた。 ら夜遅くまで選手と行動を共に ざす各校の情勢を偵察。また朝か 場入りし、松商をはじめ優勝をめ 球場では、岡谷南チームの状況 が三塁線にパント安打。三塁手の の戦評を載せてくれた。 濃毎日新聞はこういう見出しで次 塁高投で二進。すぐ送って一死 ◇立ち上がり岡南は一番藤森義

広

野球観で完全に一致。あたかも同 中越飛で右越え三塁打の竹村が先 べてだった。上田は三回、宮下の に救われた。この明暗が試合のす ンチを招いたが、岡南の強攻失敗 赤川は今井に四班を与え大きなピ の右中間二塁打で1点とすっかり 三塁にした。これで動揺した上田 制のホームイン。四回にも小須田

ルドゲーム)で母校が快勝した翌 「強攻失敗に救わる、明暗分けた 回は六回途中から代った岡南北沢 ペースに乗った。3ー0とした七

小 料 理

は校名は再び上田高等学校となり

港区新橋 3 - 17 - 2 中条ビル2F (新橋駅烏森口から歩1分) TEL 436-6 5 6 3

36会(ごきぶり会)会長

田 中 六 郎 (36期)

尊敬申し上げておりました小林連

われました。祭壇には黄白の菊花 悲しみのうちにも盛大に執り行な

力して来られたのであります。 が国青少年の公民教育の普及に尽 ボーイスカウト運動を通して、我

> 寝食を忘れて応援をされました。 を中心として、柔和会の人々が、

いうまでもなく、先輩の人格に傾

先輩自らは、昭和四年イギリス

先輩は何時も、柔和会員から寄せ 倒されてのことでありましたが、

られたあの時のご厚情は、終生忘

19期の小泉四郎先生らとともに、 者として、15期の市村今朝蔵先生 方である。また稲門上中会の指導 問研究の後継者育成に精進された 大学院文学研究委員長として、学

私どもを教導してくれたこともあ

先生は晩年には、早大の野球部

々、多数の方々のご参列を得て、

田高校同窓会関東支部長・矢島五

たことであります。既に上田中学

信条に徹しておられました。 のべられ、「柔よく剛を制す」の よく後輩の指導に温かい手を差し

及ぶ力作である。

あります。以後、柔和会員として

で、題して「随想集あたりまえの

こと」四六版で、三〇〇ページに

回想し、忘れ得ぬ人々との出会い 教え子を思い、信州小諸や上田を 稲田の社で教鞭をとった半世紀、 研究と教育に捧げてきた先生が早

の思い出として

を語るなど、折ふし書き綴った随

生の遺著がこのほど出版された。 の八月七日のことであったが、先 四郎博士が逝去されたのは、昨年

かせたのだった。

このように七十年の生涯を学問

考の経緯がよく現われている。

尚上田中学、同高専時代には、

の運動に、大きな足跡をのこされ

氏等、政界の各名士、さらに、上

郎氏を始めとして在京役員会員、

信州大学、ボーイスカウト関係等

純粋無垢な精神に共鳴され、本来

た時、当時柔和会長・依田誠先生

学院長、第二文学部長、ついで第

る

一文学部長の要職を経て、さらに

えのこと」、第二は「私の歩んだ

り、その内容の第一は「あたりま

この本は四つの柱から成ってお

て教えてきたのです。「ああ、

四は「見るということ」などであ 道」つづいて第三は「田会い」第 て知られ、その間、早大付属高校

集録した随想集が世に出たのであ 目に触れることのなかった遺稿も

先輩が衆議院議員に立候補され

を講じ、ヘーゲル研究の権威とし

樫山先生は長年、早稲田で哲学

想に加え、筐底深く蔵されて、

高齢の元衆議院議員・小山邦太郎」筆すべきことは、ボーイスカウト

**柔和会員** (29)

井

村

我が郷土の輝ける先輩としてご

美先輩が、去る10月2日午前四時

て、
で逝去になりました。
享年

旭日中綬章が、一段と輝きを添え 績に対して贈られた正五位勲三等 に囲まれた遺影と共に、生前の功

帰国後は日本ボーイスカウト日本 ・ギルウェル指導者実修所に学び

第20号

田外務大臣をはじめ、桜内建設大

組合に勤務、天性の学識を十二分

に発揮して、大きな貢献をのこさ

院議員に立候補され、二回にわた

終戦後は、長野第二区から衆議

偲び、ご逝去をお悼み申し上げ、

ことはもちろんだが、対校戦には

の精神、さらに社会のいろいろの 事象についても、性急な結論を避

の哲学を研究された先生は、人間 る。ヨーロッパの古代から近代へ

編の文章から成っており、ここで

第二の「私の歩んだ道」は十三

る人にむかひてわが言葉なし 思うにはまかせぬものと常言へ

は十一編の論文が盛り込まれてい

第一の「あたりまえのこと」に

の考え方の本質を示しているよう

と語っているが、この話は、先生

の中に、先生を詠った作品がある

ことが忘れられません。

に、うなずかざるを得なかった も、そうした父の一貫した態度

同人である奥さんまつ夫人が出さ

れた歌集「山茱萸(ぐみ)の花」

一つづける。そして表面的なものに け、その本質、根源を深く探求し

郷里の氏月などが出てくる。そし

時代の逸話、麦笛、郷愁食のそば

校時代の思い出、母校、上田中学

この歌には、先生が和服姿で、

い」とおっしゃって頂くだけですい」とおっしゃって頂くだけですが、諸兄、パン粉むのです。どうか、諸兄、パン粉

必ず神宮球場のベンチに入って、

ことに先輩のご生前のご遺徳を

謹んでど冥福をお祈り申し上げる

り国政に参画された敏腐を振われ

次第であります

でご卒業になり、直ちに蚕糸協同

元国務大臣・内閣官房長官・井

れました。

先生の生涯において、特

ので自宅にて行なわれ、当日は園 月四日、世田谷区池尻3-18-26 けさせていただきます。

告別式は初秋の温暖なる日、

蚕糸専門学校、現在の信州大学繊

先輩は上田中学ご卒業後、上田

を歴任され、この間外遊も幾度

た。私どもは先輩のそのお言葉が れられないともらしておられまし

今でも深く印象に残っておりま

動の発展に全力を傾倒されまし か、六十年の永きにわたり同運 最中に上田市原町(当時通称電信

ない友人としてことに一文を草す

までも寡作に徹した。

武田麟太郎未亡人、高見順未亡人

れた。二十一期の同窓多数のほか

葬儀は五月十八日上野谷中瑞松

数が参列された。いま君は安らか

21

島

田

次

郎

田

君が肝臓疾患のため死去され 去る五月十四日未明同窓半田祐

た。享年七十三歳。

浦和時代の<br />
ことのように<br />
思う。

院において、いとも厳かに執行さ 謹んで心から 日本プロレタリア作家同盟系の若 時代に抗して武田麟太郎を中心に 人誌「日暦」創刊号に「煙管」を 刊され、君もとの運動に加わっ 家」の途を歩んだ。昭和十一 な街」を発表、順調に「新進作 田宮虎彦、円地文子らと始めた同 大学を出て昭和八年、高見順、 翌年「文学界」に「片意地 年 の前に浮ぶ。 君は「名誉とは縁がなかった。

小路)に生れた。大正十一年三月一教授)の東京ご在住のことが判明一家であり、同窓の嘱望を一身に担 下総好昌先生(当時東京電機大学

和五年東大文学部を卒業した。中上田中学卒業後浦和高校を経て昭 は上手だった。文学に進んだのは 学時代は何かにつけわれわれより って笑っていたこともあった。と て同大学の講師に就任されたのは なるうち、君が先生の悪望を容れ し、先生を囲む同期の集まりが重 声高らかに談笑している様子が眼 にかく、お酒をこよなく愛したよ うだ。いまも、盃を挙げて、君が ころとなり退院を延期されたとい との頃のことだった。またこの間 病を得て中野で療養する身となっ たが、療養中飲酒が医師の見ると

る流れに座り続けた老作家」― 家。であったととはなかった。」 は上田中学校開校以来の最初の作 行)参照」のかも知れないが、君 サンデー毎日(昭53・6・4発 金銭とも縁が薄かった。デピュー 【西山正「告別のとき――鈍重な から死ぬまでの間一度も が行作

### 新田さんの蔵 母校に寄贈

かない面相をいちだんとおっ

出せといったら、町長、返事を

生徒をなぐる先生には賞状を

ある時だけに、生徒にもいい刺激 の読書量が減っているとの指摘も だ。最近は受験勉強などで、生徒 数少なく、新田さんは貴重な先輩 田潤蔵書コーナー」を設けて生徒 心温まる美挙といえよう。 の閲覧に供するという。まことに 上田高校では図書館の中に、 冊は母校上田高校へ寄贈された。 の意思により、君の蔵書八百二十 新津校長は「本校出身の作家は 書八百二十冊 肯二十一百芳季大

さんのあいさつは、入学式でも

いちばん大切なものだ(と彼は

学校に届いたそうだ。

かも十分も遅刻して入学式の開 の車に一年生を乗せてきて、し みてると、たいていの親が自分

始をおくらせる親がいる。町長

になる。有効に活用したい」と話

のこと成らずまことに痛惜に堪え 労作を期待していたが、<br />
ついにそ 天分の然らしむるところとは申 な経験を生かし、蘊蓄を傾けての く敬服している。これからも豊か 君の絶えざる努力と全夫人の 期待に応えたのは、恵まれた

## ってきた。そしてよく目的を貫徹

テル経営は奥さんまかせであ はずで、いま三期目だと本人が ラスメートだから、五十九歳の っているわけ、自分の本職のホ いうから、十年ばかり町長をや 芸である。私とは上田中学のク 鈴木善一は、信州上山田の町 長の 訓 示 めながら、学校までの通学時間 ち危険な場所のあるなしを確か かなくして、遅刻した親にかみ 年坊主の手を引いて、みちみ ついそうだ。新入生の親なら、

ある。おなじ日、宮入さんの計

だったし、たのまれれば鎌も打

信州からみごとなりンゴー箱

で、ことばも東京弁には馴染ま

修 71期

の思

出

〇の方がより土のにおいがする

さんの近況を知ることができ をみに奈良によったので、町長 何かの出張の途次、正倉院展 を買ってほしいという陳情をし 場に町長にあいにきて、ピアノ をはかるぐらいが当たりまえ、 育県の町長たるもの、親御さん さえ入学式に遅刻するとは、 それを何ぞや車できて、あまつ よりこっちの方がはずかしい。 小学校の上級生の代表が町役

町長さんがピアノを買ってあげ 家を出て、学校についたら先生 よう。かくてピアノは無事、 に帰ってただいまといえたら、 にお草ようございま、また家 たのだそうだ。町長の返事、 いって参りますといって

小学校の入学式の日、

町長が

毎日新聞夕刊 点 学芸欄から転載

(35期)

文

報が入る。暗然として、リンゴ

さえあれば手袋をして外光写生 で、厳冬に厚い外套を着、ひま

ても、まじめ一徹の画人であっ

に明けくれた。息子の目からみ

は本物ではない、という。私の

ものを素通りして、どうもこれ

亡父白羊は、信州の田舎絵描き

妙に技巧的な人目をひく派手な

清原

伝統工芸の展示などをみても

追求して、世にいう人間国宝に

彼は、まじめなもの、

無理をして早死をした。残念で 指定されても、勉強を怠らず、

小林

(筆者は奈良国立博物館館長)

田に関係のある者にとっては必読 もある。先生を知る者、小諸や上

**24** 期

樫山先生の遺著出版

早稲田大学教授で24期の樫山欽一て、わかり易く学生達に説いて聞一目を奪われることなく、隠れた他 行く。この項には、このような思 の一面を探り出し、これを究めて のこと、野球のことから宗教に まで論及された好エッセイであ 章から成り、恩師のこと、学生 第三の「出会い」は十三編の文

女優である文枝さんは、お父さん 表面的なものを追いがちな私た きらい、あたりまえのことを大 ちに、父はよく、本筋がどこに 樫山先生のお嬢さんで、民芸の 切にするようにと、折りに触れ あるかを説き、断定することを 平易に説いた文章は少ないと思 のもつ役割を、これほど明快、 き物の考え方を示唆し、思想の混 会に渦巻くいろいろの問題を冷静 迷のはなはだしい現代で、哲学 してことでは学問、教育、自由、 十編の論文で構成されている。そ にうけとめ、公正な判断を下すべ 文明、死といったような、現代社 第四の「見るということ」は「

最後に、短歌誌「まひる野」の さ 私は提案します。パン粉屋さん の 別に、他のパン粉屋さんに関係のない方は、どうか、パン粉は「フない方は、どうか、パン粉は「ファイスター」と指名して、頂きたいのです。一言、奥様に「おい、 

朝の骨壷だの鎌倉の黄瀬戸の壷 びらかしにきた。 由はすこぶる単純なことで、近 だそうで、得意そうに私にみせ を切るはさみを打ってやる約束 所のお百姓さんがちょっと灰釉 をしてむりやりに承知させたの のかかった鎌倉も早いころの壷 んでもらうことにする。 ころの館員にくばって故人を偲 を持っていて、宮入さんほしく し仕方がない。鎌やリンゴの枝 若き日の回想であり、身辺雑記で そのころ私のところにも奈良 故人は壷が好きであった。理 数が足りないまでも私のと

持っている。

共通したのだろう。白羊の絵も た。そんなどころが宮入さんと

て、こっちの方がうわ手だとい などがあったから、それをみせ

てこれは、先生の望郷の記であり一んでくるように思われる。 (38期 清水 幾男記

あたりまえのこと』

ン粉

イスター

(36) 伊藤東四次郎 金のある奴は金を出せ。

た方なら、味と香りの「フライス のモットウであるとか。 会報「うえだ」をお読みになっ 何もない奴は早くくたばれ。 これが上田高校同窓会関東支部 時間のある奴は時間を出せ 知恵のある奴は知恵を出せ

綜合建設業 株式会社 宮 下 組

上田市路入2-1-17 0268 - 22 - 027

専務取締役 石 塚 嘉四郎 (36期)

会 葬 御礼 御 故 小 林 運 美(24期)

東京都世田谷区池尻3-18-28 志ま 喪主 妻 小林 小泉 孝雄 49期 秀 24期 小林 陽三 51期 友人代表 富岡 相模 30期 戸嶋 学 60期 弟 原 婿 清水 信幸 61期 栄一 41期 小泉 伊藤 善行 43期 清原 晃 68期

元享 44期

兼萬工業株式会社

### 「うえだ」20号の幾行を振う

電飾 中

九八一六〇四 七 五 C 礼 C 0 七

毎日

新聞名誉職

水

〒35 電C四五−ハ 凸二十七三C四 桝 浜 市磯子区森5 丘一一1Cー三

舒任所

区中

降二十

紅 I バ 馬 武

本経済新聞大阪本社

缸

捨

久

和田製本工業株式会社 事業部次長 業 電話〇三(九三二)七一二一代~九番 田 原

千代田区神田鍛冶町三一三二五二八八 0

柏一級

葉建

設

計 計事務所

主

字

石

倉

謙

177

士見

二台

四九二

公認会計士 小 林

界経済研究協会

韭

港区虎ノ門ニ

--

10東京都千代田区内神田三 papa せせ 快 =-

東京都文京区立千駄木小学校長 北 田田

電話 ()三(八二1)七一六八~九番東京都文京区千駄木五丁目四四番二号 季之 電話(九〇二)七六五三番代東京都北区赤羽南一丁目二十四番十八号 田

ウスダ食品株式会社

代表取締役

日

取締役社長 土

田 刊

大日野工業株式会社

FELO四八七(七一)二二一七代 按玉県上尾市西宮下三〇

敦

代表取締役

神

本社工場平174

電話(九六八)三四二一番代東京都板橋区宮本町三九番三号

(二九四)八六四一

一型 行訂 番2一 会期 寛

多忙のためすっか てかり、 TEL (OD七二)

T K. C東都計算センター

税理士 堀内茂雄(44回) 半田嘉道(55回)

> 東京都墨田区業平4-9-3 TEL (625) 2291(代表) (出身地小県郡真田町)

### 祝「うえだ」20号発刊 在京はたち会

(大正10年卒業20回)

### 大平台

TEL 03-274-1007

保刈 徳彦(41期)

### 大曽根歯科医院

横浜市港北区大曽根 649 TEL 045-541-2462

院長 保刈 越子

横浜市港北区太尾町195-7 045-543-3803

### 公認会計士 小林

公認会計士 税 理 士 小林 郷司

東京都千代田区神田鍛冶町3-3共同ビル (新千代田) 電話 (252) 8801~4番 自 宅 東京京練馬区関町4~甲748~9

電 15 (920) 6736、6748番

美ヶ原の嶺、 依田川の清流

### 在京啓明会

(依田窪出身者の集い)

郷司 ( / 40/)

野間 朋子 (上高女28期) 小川

敏正 ( / 42/)

早川

三浦,嘉春(上高47/) 伊沢多喜男 ( / 54/)

紀子( 赤羽

2回例会を開いています。参加を歓迎いたします。

### 堀硝子株式会社

東京都中央区蠣殼町1-32-7 TEL 668-0751

常務取締役 皆 藤 義 久 (36期)

複写・マイクロ写真・トレース・印刷・測量・設計

### セーユウ興業株式会社

東京都港区虎ノ門3-14-8 TEL 436-2941代表

代表取締役社長 荻原信好(36期)

# 窓

着くと若、呼是ら基る名の集を名。彼 う見 だく十 か期 つ期。で る務める。のは生 大 とろにぬ がのるとにはつも気が にしばかる なるといる ないに 機 よをさいな 自っら気が にしばかった

をていのけれさ云 っ幹い、依し多だす云 たっ 親しし語 高ませ 期ざもは 高でのま 高中に こへた て 今速 。 う新ももしに 希とテ方でるらう て事よ 広頼てくと。 っ 同て したいっ窓すつ 待せら具ときをす窓心次そそ。い日具 。しつ計てよ

上田市中央6-1-25 (鍛治町) TEL カクタ (自宅) 22-0675/駐車場 23-3341

### 環境庁指定国民保養温泉地

信州 鹿教湯温泉 日本観光旅館連盟会員 交通公社協定

いづみや旅館

〒386~03 長野県小県郡丸子町 鹿教楊温泉 TEL 丸子 (02684) 4-2001代表

代表取締役 斎藤博邦(36期)

来聴歓迎(入場無料) 「仏教文化講座」

根気づよく呼びかけを

毎月1回 既に 278回閉溝 講師炘界の権威者毎回二名

場所・安田生命ホール(新宿駅西口正面)

主催・浅草寺 開講日・(842)0181にお問い合せ下さい

清水谷 孝尚 (36期)

カクタ染物店 下 道 駐 車 場

財政の健全化には

開

折井耳鼻咽喉科医院

上田市大手一丁目10番14号 TEL0268 (22) 0463

(36期) 折 井 正 彦

昭和53年11月25日(土曜日)

### 会報「うえだ」20号の発行を探う

株式会社 ツルヤ化成工業株式会社 株式会社 原嶋貴石株式会社 都立上野高等学校 市川法律事務所 オフイス・コンピューター販売 株式会社 弁護士 取締役社長「原 常務取締役 小 専務取締役 代表取締役 文京営業所東京都文京区白山三丁目一番二六号 康コ 英 砂 市 児 柳 星 成 宅 社 (ハナブサ) 田 八四二八八八七• 中 一年代田区神田美倉町一〇 共同ビル 一年代田区神田美倉町一〇 十二五二十八七七三~四七 一 七 一 ノ七 企 電神奈川 電話 〇四三 (三) 五1四〇東京都三鷹市深大寺三七七〇 電新 電話 〇三十四八二十〇六六二世田谷区祖師ヶ谷四十二九十二〇 商 話三五七八八六一 市 話 沢 嶋 111 野 田 玉 画 〇門二五二六天 県相模原市淵野辺ニフニ四 0四十五一五五 川口市幸町・ノベンニ 佐 則 辰 志 賢 和 鎖雄 造 花王石鹼株式会社 陽光雷士株式会社 例 明光通商株式会社 信州味噌株式会社 菊川工業株式会社 二誠工業株式会社 社 代表取締役 代表取締役 常務取締役 7 續 問 幸 長 牧 堀 深 荻 小 小  $\equiv$ 丸 工本 電本 断 〇三八一平五二一 場社 話社 村 文京区小 六六五 - 六〇五五(直)中央区日本橋茅場町1ノ1 渋谷区代 長野県小諸市甲二、九〇五東京都新宿区下落合一1五二三 〇四五—九三三—一一四一(代表)横浜市緑区川和町六三五 井 林 内 内 山 井 Ш 田 二〇〇一〇 区菊川ニノーハン一〇 五〇一三三〇八(直)地域振興整備公団 啓 安 邦 英 ニノニノニ 之 児 ti (代表) 籍惇 七九 夫 五九 ホテルな 埼玉県ガンセン 日本BCGKK 大木建設株式会社 日本医科大学第二病院 マシモ工業株式会社 常務取締役 樂剤部長 取締役社長 テルた 社 院 原 尾 Ш 成 Щ 竹 高 清 (自宅) 川崎市多摩区登戸新町二〇一ノニ (自宅) 千葉市朝日丘三、二二四ノ二 (自宅)世田谷区桜新町 〇四七四(公公)三六八六船橋市薬円合三ノ十六ノ八船橋市薬円合三ノ十六ノ八 北区西ヶ丘一 (三二一)四五九〇 〇三六〇一六十六六 11 011 -四十二十四0 岸 沢 本 内 水 沢 Ti. 九三三七七 五八四 澄

### 伸和建工株式会社

〒176 練馬区豊玉北4-8 TEL 03-993-2791

代表取締役 坂 口 蔵 道(政義)(36期)

### 祝うえだ。特集号

東京上中会【昭和33年発会 毎月開催】

 21 長谷川 長兵衛
 平島
 實
 近藤
 貞
 小池 秦 岳

 松 平 忠 久
 大日向 孝 三
 里 見 卓 郎 島 川 進

 島 田 次 郎
 滝 沢 勝 人 土 屋 暹
 選

 22 平 林 英 一 岩 波 東 平 小 山 礼 吉 宮 沢 勝次郎 柴 弘 人 横 田 栄一郎 柳 沢 正 春
 本 京 辰 民 二 大 森 頼 雄

 23 小 島 源 五 桑 原 民 二 大 森 頼 雄
 ア 保 田 赳 夫

 24 石 川 秀 敏 滝 沢 中 宮 岡 秀 依 田 赳 夫

 26 小 山 正 徳 酒 井 諭 一 滝 沢 傳



東京総合案内所 F 曲 社代表取締役 自 電 電長 話 話野 動 010 ○県 テレックス アレックス 車 高 三三一〇 株 (36回案) ハ市原三九一 スニニニ九-〇〇八五 スニニニ九-〇〇一 スニニニ九-〇〇一 Ш 式 会 社

NISSEI

1歩進んだ射出成形機をおとどけする

日精樹脂工業株式會社

本社工場・長野県坂城町 ☎02688(2)3000(大代) 〒389-06 営業所・東京・大阪・名古屋・長野 出張所・全国25ヵ所 海外サービスステーション15ヵ所

専務取締役 室 賀 千 秋 36回卒)

も、更に一層寮を御利用願いたく

身的で尽力で後援に報いるために

けることは、それ自体望ましく

有様をみた時、どっちがカモられ には鼻にもかけない。吾輩はその 物色していて、それ以外のカモ達

青年時代に、学生寮に入って集

ハウマッチ?」

地方出身の在京学生のための寮の 質与を受けるを得て、上記地方 児**輩**によるもので、 大正六年の **設へと具体化したのは、**主とし たものであったが、この機運が |子曲寮創立当時のこと=東信 田、小県、佐久を中心とする 千曲寮の創設と沿革 吉祥寺井の頭公園に近い郊外の三 りますが、特記せねばならぬこと **母校上田高校(旧上田中学)とそ** 助によるものであり、なかでも、 が少きに過ぎ、上田その周辺の先 田高校卒業の寮生は六名でありま は寺商店街でのショッピング等、 字の合間の井の頭公園の散歩、吉 れた郷里出身の質助者による御援 生数はほとんど千名に近くう 物は鉄筋コンクリート三階建 僧信十一名であり、 この中、 生数は三七五名に及んでおりま 一年の創設当初より現在までの 是員六十四名であります。大 現寮生六〇名の出身地域別内 田高校(旧上田中学)出身の 小県、佐久地区、とりわけ

麻積敬了

ちろん目の色の異なる、人間と云 の白いの、黄色いの、 から、気味悪げに笑って、自分の と、「ヤポンフンドシ?」と、首 「ヤボン、フンドシネ」と言う 「これは、何と言うものか?」

がら、バスから上がってくると、 ける。すぐに御用立が出来ると言 洗ってもすぐ乾いてくれるし、 サメに途中で食べられない様にと にはタオルの代用にもなるし、 吾輩は、中学生時代から、赤フ の一部にもメッキが出来るのかと ンだ」と言うと、恐る恐る手を伸 早合点したのであろう。 と、目をパチクリさせながら言っ じた。毎岸端のせいか、でも、 シャワーが、何となく塩辛く感 「なーんだ、ガムではないか 「ノン、ノン……プラックスキ 技術の進んだ日本では、肉体

紙三枚以內

◎年会費の納入方法につい

方は、その会場の受付で、大会

一
要とは別に
年会費を納入され

費の納入に御力下さい。

方法がとられてもいます。 本会計へ納めて下さる、という

(三) 支部大会言(每年)

原稿枚数 内容 自由

締切日

心しながら、姫のなすままに、 「さっきのブラックをくれ」 言葉が余り通じなくても案外、

告欄に理事監事の氏名をご紹介致

散歩をしていると、

声、

一田高校出身の学生諸君の入寮を

ドルが二・四ギルダー位と云う事 が、一ドルが、三・六ギルダーだ ドル二二〇円台ともなると、 吾輩は、チュリップ姫に重ねて そして、その階段毎の、ジャス で、前号は始まっていたんです 「オー、トウエンティファイ 「トウエンティファイブギルダ る。気品溢れる容姿は、旧貴族の むづかし家の姫は、と云うと、こ 若いカップルは、放々の態で何処 どもの歯をむき出して、ウーウー た時、人間も畜生さ?、と、つく はては石を投げる者まであった。 パ声は、次から次へと伝わり、 をたたいてボメてくれた ン野郎を見入ったのである。 る様なトピの目付きで、とのヤポ 得意の、カンツォーネを聞かせて ちと白人にも自信があったので、 をヌギ捨てて踊った。 の踊りを連想しての事か?」と、 ダンスに誘ったら、姫殿、食い入 一緒になって、ハワイアンダンス は何処へやったのか……。 吾輩も、オランダに来て、飾窓 当の吾輩は、ノドにかけては、 お姫様は、腰をくねくねさせな

うのである。吾輩は、「ハイハイ かり、言われるままに、赤フンド いはあったろう。 夢と笑が広 シー丁になって、バスのある部屋 姫は、ことでは、一国一城の主 「裸になってパスに入れ」と云 謡を歌い上げるとは……出発時に うしてプラックなのか~~~~」 さて、姫様の大西洋で、ヤポンの が、やにわに起き上がった。 ゴボーを洗い始めたら、 は想像もしていなかったものを、 「ユーの様なお腹の毛は白人に 一室で、赤フン一丁、ナポリ民 ヤボンノューのゴボーと

髪の白いの、赤いの、黒いの、肌

の様子で、カモ達を物色している 様々のスタイルの姫達が、夕涼み 値段の話になるのかな?

さて、号が二〇号へ……

る。特参した黒ズキンチャンを見 と、少々あわて気味でおっしゃ もあるが、プラック棒は始めてだ

ての事だったのである。 「メッキをしたのだ、それもプ の清流が洗っている。

ラッククロムをネ! ここまでメッキが出来るのから… 「何? メッキャ ヤボンでは た。石は水面をくだいて、朱の花 を咲かせる。手を休めると、

あれから三十四年たつ。

において取扱っています。 年会費の納入は左記の方法に

の十の十

矢島鋳工機内 関東文部東

原稿送 「川口市並木」

広告募集

会計の代表者となっています。 本会会計は(47)牧内操氏が

上田高校同窓会、

戦災で残念にも焼失したが

肌の色、毛の色、目の色と異なっ

人間どもをお造りになった事か、

「あーあ、神様は何と意地悪く

せを重ねさせて人間どもを複雑に

種一六四、一万

その年の年会費をこの票によっ

発行の会報を全会員に送るとき

(一) 毎年春季(五月か六月)

る場合もあります。

(三)または、各期にはそれぞ

内会計事務所上田高校同窓会

振替口座

長野一八一三二

埼玉県川口市青木ニノニノ七枚

次の如く設定されていま

本会々計への払込票を同封し、

ブラボー」と、手 と、簿暗い、灯の下ではよく見分 た、硬貨であった。そして姫殿は 彫まれてあった。彼女の心からの 「アウフウイーデルゼーヘン」 「ダンケシェーン」と、吾輩を

川むこうの飛行場はまわりが草

は、夕映えに染まった川に投げ がちらばっている。小石を拾って にむかった。月見草の咲きのこり ことがある。その町はずれを千曲 級友のKとその河原 中学を出た足で松高へ進んだ。一 とり合って走ったKは、その後N たらけのようだ。そこから赤っぱ 水に頭を出した石伝いに、 卒業を待

N町の川淵は、春ごとに猫柳の 教育に対する意欲を、青年顔負け 連に手を焼いた思い出を話され、 という言葉は、この先生のために 高野先生は元気そのもので矍鑠

で光る千曲を見た。近ずけば、朝 古へ移ったのは、五年の四月。 ある時期、それが日課であった。

った出席者の氏名、次のとおり

ることは大変ありがたいと、

て流れたにちがいない。 かった。しかし今後、あの川岸に 不幸にしてそれを見る機会はな K君。君はなぜ死んだの

そのとき彼への挽歌のように聞

足もとを淡々と流れる瀬音は

て別れを告げたい。

ってくれたのは、嘘だったのか か。あんなに熱をこめて将来を

ったのかー

そう、ばやきながら、

**拶をすると、彼女、日本式の礼を** してから、何やら、吾輩の手の内 に、ヒンヤリとした物を握らせ 「ダンケシェーン」と、ドイツ が出て、服気を催し始めま様に色 の外に出た。外はヒンヤリとした 救世軍の旗を持った一隊が、 姫が開けてくれた、重いドアー りそそぐ寒月の光を、金にくだい

語で礼を言った。

通りへ橋を渡って行った。 見た。五フランのスイス銀貨であ 賜り物をポケットから取り出して 敗と、ラッパを鳴らせながら向う ホテルに帰り、先程の姫からの

青くさい雑命 師高野豊文先生、野明潔先生出席

雄君から、出席者一同に謝意が述 者総員二十八人、関東支部からは 司会で始まり、幹事長の小川原保 一同、きょう一日は、タイムトン

いというあいさつがあって懇談に 元気になられ、懐しい思い出を語 を害しておられたが、最近は大分 恩師野明先生は、しばらく健康

**関東支部=有賀 温、小林三郎、** 清水幾男、塚田祐三、若 佐吉、宮崎盛登、 宮沢文 穂谷 次、松崎幸雄、宮崎 正一、中島英男、堀部信人 虚

いつまでたっても話は尽きないが、予定した時間も残り少くなった。来年は卒業して四十年になるた。来年は卒業して四十年になるた。来年のととになり、B組幹事から、来年のとになり、B組幹事の名の諸君にパトン・タッチして「来年の八月十五日にまた会おう」と誓いあって関会とな 熱意と抱貨を力強く語り、一向か大沢芳夫君が、地方自治に取組む 東京で勉学の学生諸君! 60余年の歴史と伝統に輝く

寮

の熱っぱさで語られた。

財団法人 千 曲 寮

東京都三鷹市下連雀6-6-30 電 話 (0422) 46-0 7 2 6

理事長 小山 陽太郎 (上中)

島田 次郎(上中)

西澤 慶二郎 (上中) 今井 斌 (上中) 飯島 三之助(長中) 岩波 東平(上中) 黒澤 三郎(野中) 瀧澤 勝人(上中) 高澤見 澄平(上中) 中澤 義之(野中) ■ 生駒 賢助(野中) 片岡 武雄(上中)

小島 尚 (36期)

E TO THE STATE OF THE STATE OF

〒326 上田市常田20-8 TEL 0268-22-3408 符の新田潤君の未亡人芳子さんと 開催され、十三名の会員と特別招

小山礼吉、島川 進、島田次郎

君を迎えて会員三十二名顔をそろ

段の千代田荘で、約一年半ぶりに

東京大士会は、八月三十日、

東京大士会

(21期 若林 菱三記)

泉笹屋ホテルに相集いました。

妓連のサービスで楽しい夜を過

宮坂両先生を来賓として

其会をする者、マージャンに興ず る者、また社会探訪に出掛かける

一夜あけてねばけまなこで朝食

関東支部=大津義雄、高橋亮吉、

堀内義幸、町島正飯

り、ことで別れを惜しみつつ解散

で、水にさわり石につまづきなつ

終ってはじめてという者が大部分

千曲川原へ下りたのは、学窓を

午後三時頃には全員戸倉上山田温

当日は母校同窓会の総会が挙行

親類の半田収一郎氏(五十回卒)

大士会の出席

新田未亡人

それぞれいただいて、一夕の大土

## 新旧の校舎に感慨一入

がら上中時代さながらに語る等、 場君が「俺は今グランドで選手を 上中健児の昔を偲び、語りつつ待 定刻に近づき、野球部OBの馬 我々の三年生頃から始まった現役

しさを感じざるを得ない。 宴会は「万花荘」で

業で生存者はその半数余りである

進行し、続いて丸山君の司会で、 会のあいさつ、経過報告等型通り |は、当時の生徒控室の入口が小倉||教練の銃器室とがあった建物、生

の袴に筒袖で上中に入学したころ

婦人の外人教師を怒らせたあの諸 の他の式典が行われた講堂かと、 てているのには、これが卒業式そ 堂の紙天井が、ポロボロに破れ果 これらの永い歴史が刻まれた建 室に模様替えされた北校舎の跡に

校舎と背中合せに極めて対照的で

に戻り記念撮影をして、第二会場 校内を一巡して、再び校門の所

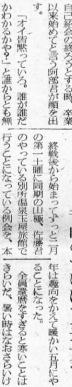


終戦後から始まってずっと二月

年は趣向をかえて暖かい五月にや

ることになった。

全員還暦をすぎると寒いことは





も数々出されたが、桜井君の最近 かなか思い出せない人もあったよ 司会者の指名により、それぞれ

、屋の御隠居という感であった。

千曲のつけばで三二会 憲二、保坂富男、宮本三重郎、馬

わたり見回し、一、三の人を指し 互に確め合うことが出来たが、な く言われ、キョトシとした顔で一 「誰某だろう」と母ぶことが

川日吉、小山卓一郎、高野禎吉、 小山勝、中曽根文夫、星野一郎、

れぞれの部屋に分れて夜のふける 人々がボツボツ席を立ち始めたの 出席者氏名(順不同)

五年振りの再会とあって、互に顔一のは零時をすぎていただろうか。

になった。当番幹事諸君のはから た。おかげで信州の鎌倉探訪と千 曲川の「つけば」を実現すること いで、五月二十日(土)にきまっ が十名も押しかけ、名古屋、甲府 午後五時の定刻前には、関東勢 そのなかで初参組は、竹内好

名残りはつきないが、日帰りのないなど、わがままを言いだす年

組はまた各部屋に陣取って二次会 んとび出すありさまで、時間のみ 話せばわかってしまい、「やあ、 終止符を打ったのが九時、日帰り 者を送ったあとは二十六名の宿泊 かくてきわめて盛会裡に宴会に

の鎌倉を探訪する好機に恵まれ の前市教育長、山極真平君の専門 観光協会のマイクロバスにて同期 翌二十一日(日)は、別所温泉 | 科正、宮崎光邦 田正臣、井出忠雄、金井正男、久

り。重文の樵谷、幼牛両和尚の座 君による国宝八角三重塔の説明あ ①北向観音=愛染堂、絵馬、北 **崎洋司、宮田繁、母袋忠右衛門、** 星合義雄、洞口文雄、増田徳、宮 近藤觀司、斉藤博、坂田芳雄、坂 本勝三、佐糜繁雄、清水憲之助、 失島卯太郎、山阜一、山極真平、

って同期生死殁者五十柱の慰霊を なお、関東高見沢君の動議によ 依田正、若麻績凡夫、若林正五、

④中禅寺=重文薬師堂について ③常楽寺=重要文化財石造多宝

者が多く、ここは車中の説明だけ ⑥生島足島神社<br />
=日本の中央に 事)をお招きし「「当面の経済情 国税局長、現地域振興整備公団理 師には36期の丸山英人氏(元大阪 る十一月一日(水)午後六時から らオイルショック以後の状況、今

第 10

回例会開く

経済問題懇談会第10回例会が去

安楽寺の国宝塔と比較して研究す

内惇、村上信三、小木曾誠、田原 **春日敦美、神林常視、清水卓、堀** 後の見通し等の、明確な分析をさ 行うととになった。出席者は次の

### 三好町產婦人科

児 玉 友雄(36期)

〒386 上田市三好町3 TEL 0268-23-2 3 8 1

### 洋紙卸

株式会社 丸

専務取締役 竹 内

雄(36期)

上田本店 上田市問屋町 1 3 4 TEL 0268 代表 24-8111 **長野支店** 長野市南高田1513 TEL 0262 ≠ 43-0241 松本支店 松本市木工町1218 TEL 0263 / 25-1980 前橋支店 前橋市東片貝町 9 3 7 TEL 0272 / 31-0280 予定時刻を二時間も早めてぞくぞ 世話人を待期させていたところ、 なつかしい便りを寄せてくれた諸

当日ホテルのロピーに一組から

の予定時間は、感激と勇気とそし 并重治両君の名司会により一時間 名の多きに達し、

また欠席するも

い出して、胸がしめられる思いで 達せずして夭折した旧友の顔を思

最後に母校へ今回の記念として

次で式典に入り、和田智晴、

得ることが出来ました。現在二〇 を要請したところ、絶大の質成を 寄付を申し入れ、<br />
皆さんに御協力

口位の申込みがあります。

勝しました。
集う同窓生は一二〇

舌の各先生は元気に出席され感

荘厳な読経によって始められ、志

生鳴、佐々木両先生は故人となら

に思えた。

一堂に着席のあと、物故者九人

の同窓会実行には全面的な協力を 得たことを心から感謝しておりま

たいのは

34

有看

藤倉惰順君の

重義、両角元、竹田敬太郎、宮坂

れたが、町田太郎、宮崎真、岩佐

田温泉において盛会に開郪出来ま

異にも見え、また行き交う他のお

17年の経歴を誇っております。現

在28名のメンバーで構成され、毎

回の出席率は80%以上です。今回

肩を抱きあって挨拶する姿は、奇

客様達に羨望の色が見られたよう

した。当時担任の先生八人の中、

**母校を巣立って実に25年。第一回** 

だ呆然とし、次に握手をかわし、 く集合され、25年振りの再会にた

上田には松尾九年会がありま

記は一大 一时体调之前

上田より近況報告。第5期生は

案内された学士会館には二十人

されている諸氏の面貌に、往時の

風雪に堪え、いま各方面に活躍

姿がいぶし銀のように光る。若い

五人出席している」とのお話で、 なく、恐縮しながら「今日は医師が

> なかった様子、でも、それぞれに 人も多いし、平坦な道ばかりでは

我が道をここまで来られた事をう

阪から、また上田からも見えたの 東京を中心に埼玉、静岡、遠く大 近い諸氏が待っていて下さった。

て、見事な実在となっている。魅 日の面影が、年輪を加え増幅され

った紅顔の少年達も、四十余年を

昭和十一年春、古城の門を巣立

はいま一三〇名程に減ってしま

い、まことに残念である。死亡し

35期生「ささや」に集る

経て既に齢六十、還暦を迎える

はじめ追憶や感懐が渦を巻くよ

当時、国を挙げ画一的軍事教育

・年になって、共に学んだ二五〇名一における戦死者がほとんどで、我一去る六月十八日(日曜日) 午前十

た者は、支那事変から大東亜戦争

第十九号で伝えたとおりであるが

撤去されることは「会報うえだ」

さよなら」柔和会が開かれた。

母校の柔道場が本年末をもって 一時から、母校の道場で「量

母校柔道場で柔和

会

招かれ

うで言葉もまとまらない。その中

の行われていた中で、空腹をかか

お出で下さった。敦急車のお世話一あれから三十有余年、 まな記憶がよみがえり駆け巡る。 きゲートルの姿が大写しに浮かん 生諸君の顔々である。戦闘帽に巻 だ。戦争が苛烈を極め、既に末期 て来た。思い出多いかつての諸君 各位の話を聴きながら、さまざ 大病された あったが、まさにその通りだ。 えながら、一人一人確かに独自の

「一巻の小説になる」という声も

期)坂田隆雄(26期)岩下美千恵

期)、小林睦男(39期)、横谷重

(40期)副幹事長·小林軍治(37

時(47期)各常任幹事、小山柔道

(2期)原相模(30期)岡清助

(29期) 井村薫(29期) 田原英勝

柔道班教師各先生を迎え、東京か 学校長、市村学校事務局長、小山

山寺豊一(31期)幹事長、石田守

会長、山崎保太(23期)副会長、

来賓に柳沢文秋同窓会長・新津

ろが。その頃病床にあったある 朝、家の庭先に忽然と大きな防空 も世情を映して一冊の本になるだ の諸君の名前も判らず、お礼を述 後になって知ったのだが、遂にそ そっと造っていってくれたことは 線が出来上っていた。何人かの卒 に悪戦苦闘の時代だった――これ もまた多事多難、精神的に身体的 柔生諸君が未明に、工具持参の上 在職当時、戦争をはさんで筆者

なった。価値観云々とか不確実性 **只を持っておられるのだ。** 見だと、その証左を目のあたり見 い変転をして来た。しかし、今日 の時代とか、まことに目まぐるし る思いだった。まさしく独自の視 の諸氏に接して、流動中に確然不 時代は流れていま平和な乱世と 価値観も帰するところ識

び、向後健康で活躍を続けられる い諸氏に再会出来た幸運をよろこ 三十五年の歳月を思うと感慨深 折にふれて脳裏に浮かぶ懐かし しい。これは上田を憶う誰しもの 夏秋冬を心して見つめておいてほ こと……あの古い校門を大切に、 で夜は中秋の名月だった。 在学中の諸君へも加筆してひと

い。この日はちょうど九月十七日一

そして、若い日を過ごす身辺の春一で、第三十五回卒の頁を見れば、 の厚みの五分の一に位置してお 雄弁に物語っていると言えよう。 々の年代が如何に激動の時代の後 り、如何にも古い卒業生の一団と 第一回率から我々まで紙数で全体 性をもろに被ったかを、何よりも



欠席した諸君も、共に健勝である よう願ってクラス会の報告とす 【出席者氏名(順不同) 宮坂、

> 披露。年をも感じさせぬ激しさに 着ふるした柔道着を持参、稽古を

さすが上中柔道部で鍛えた精神と

峯村(治)、木村、 鈴木、 小林(義)、大井、 西沢(左)、浜村、 城田、峯村(力)、 木村利喜雄記) 体力に、見る者を感動させた。

畳よ!さよなら」

引きつづいて会場を市内の笹屋

楽しく行った。席上依田先生から 子思いのお心に一同感激を新たに の資金を頂載し、先生の変らぬ弟 今後の柔和会発展のためにと過分 可会により、懇親会を盛大にかつ にかえ、小林睦男(39期)幹事の この畳の上での柔和会を開くに

私学会館で26期会開

猛暑の八月三日の夕、東京市ヶ 意気大いに上った。

籍者三十名中十五名の好出席率で 部の二十六期生会が見催され、在 谷の私学会館で久しぶりに関東支 しょうい山正徳 れら同期より最初の本年度の叙動 君の去る五月二十七、 幹事滝沢伝君の開会の挨拶、

青春に還り上田弁丸出しで懐旧談 礼讃の感想を述べ、後は飲む程に 登君の一周忌の模様の報告があり にふけり、楽しい夏の夜を過し、 この会初出席の宮入正道君が上中 芸を約した。出席者名次の通り。 配念写真をとり、寄せ書をして再

公的

美、工藤一三、倉島直喜、小泉

**蓬雄、高野貢、滝沢伝、田中喜** 郎、本堂知道、宮入正道、村 小山正徳、酒井諭一、坂田 酒井 論 記

です 酒井湾 田政界 国後门作 さとの田沢温泉での同期会の状況 受賞者小山正徳君の音頭による生 八日のふる

石井一美、上田政男、唐沢正 

得た話に「サスガー

赤池三男(4)国税庁総務課。

だっただけに、冷静な見方と的を

支店の課長。職場の苦労と証券業

会うため新幹線でかけつけた。愛

の部長に栄転したばかり。旧友に

妻は、伊藤千恵子チャンです。

紘士 (7)。七月に名古屋陸運局

最遠方の名古屋から来た寺島

務についてひとくさり。生徒会長

医療法人 豊 正 会

た。参会者一同、往時をしのび、

「稽古」、次いで茶話会が行われ

青春時代にかえって愉快なひとと

のうち成績良好で、かつ将来性の

ある(と自分だけが思っている)

低級料理店で、第五十八回卒業生

八月二十六日午後、港区赤坂の

わけても井村薫、原相模先輩は

者だけが集った。十五人。

参集者を到着順に紹介する。か

開かれた。依田誠先生の訓話に始

が……」と話し始めると、やはり

同窓である。座が早くもなごむ。

により、なつかしい道場での会は

小林郷司柔和会副幹事長の司会

同じだ。だが「お前工、あのとき

支部幹事でもある。

十八年振りとなれば、初対面と一この集いの即席司会と幹事。

年後が楽しみ

……」「丸子線で通っていた〇〇

まり、現役クラプ員の「柔の形」

が参加した。

(4期) 小市則夫(5期)の会員

田 医院

> 豊 田 正 光 (36期)

〒386 上田市中央西 2-11-32 TEL 0268-22-1 1 5-8

### 水野歯科医院

水 野 謙 → (36期)

〒386 上田市中央4-1-14 (丸堀町)

TEL 0 2 6 8-2 2-1 3 7 7

選、滝沢勝人、若林泰三、

一計幹事まで御問合せ下さい。

唐沢正美(77期)児玉徳得、樋口

巌、飯島力夫、村上悠紀雄、宮沢

会計幹事 牧内 操(47期)

鎌原義則、関 政雄、若林元

雄、中山順蔵、石倉謙一、山崎行

勝(3期)田尾清、柳沢

柳田茂雄、奥山寿人、宮下武平、

男、伊藤東四次郎、宮下春三、村

博、片山美(4期)山岸五郎、

致していますので御高承下さい 記載発表し、もって領収の証と

登、萩野喜

良、白井善臣、竹内重、土屋利

しいます、原則として領収証は発

## 京同窓会、岳南会に招待を受け、

なる事項について報告。<br />
本号では 用車に一杯、ズツシリと重い、 白でありそれぞれに職業や勤務 長三名出席、親交につくす。 幹事五十一名、大会の準備完了す 六月十九日 来る二十三日の第十 窓生の集いも感激のうちに無事終

村田編集長の提案により十期毎に

九月二十日、幹事会開催し、幹事 財政面の検討、その他について役 合であった。

今大会の反省と今後の本会運営に

宏、吉村晴夫(5月)

哲、清水公寬、藤森善

の内一七一五一一

四三一大田区池上六一三三一四

● (7) 小林 象平

その御冥福を祈り、御遺族様に

心配の方は御相談下さい

せない特殊な装置です

よう等の疾患の正確な診断

郎一十一九二一〇三一八王子市堀

(59) 小林 (鈴木) 憲昭一十一七

方関東支部より、矢島(新)支

本部同窓大会に、

増頁の上、紙面に光彩もそえよう ぞれの分担頁も大略定め、各自責 十月日

塚田祐夫―〒二四〇一〇一一神奈

武夫、小林盛弘、(8) 山口留太

井上希代子、塚田

槻

中

央

病

院

(62) 忠宗喜城、嘉品

久保忠久、増田

メゾン十一、(9) 店畑売巳―十

(64) 伊田 賢、高遠節夫

当病院に設置されているCT

つコン

(72) 奥村 明一十

<

中

務局にて開催する各員割当に骨折 は十一月十三日として午後十時に 長によって割当てられ、次会会議 行約 浜村希志夫、吉池昭夫、和歌月弘 小市則夫、馬場武彦、宮入裕夫、 秀雄、高島通敏(51期)村田 津信一、山崎健一、石巻伸夫、河 小川圭一、丸山 瑛一、飯塚 寿



(56期) 中村甲治、沢尾朗夫、佐

函館市日吉町三一二四一五、 児島和人一一一六七一杉並区下

51

一一四四一大田区新蒲田一—十六

関東支部会員の中、 号の戻り

(13) 杉山

茂

昭和五三年七月十一日

砂遺族様より電話報告

(13) 船崎己代治

八〇一〇三一東久留米市中央町

六、曆(熊川)昇一二三三一

潔一一八二一調布市下石原二一

重一——二二一一横浜市港北区篠

会報十

御遺族様より電話報告

白井道也——二三三—横浜市港

(42期)岩下 実、横田種雄、大 (43期) 小山英治、小林拓也、古 行裕、前田由美子、保屋

柳沢義孝、金井

尚、 寺村允安 (59期) 小山 一夫 享、中島勇司、柴田哲男、城下 進、柴田哲男、塚田裕夫、斉藤 機、佐々木本国、仁平光義、手塚 期)林嘉市、伊藤紀男、堀内 野栄一、川上啓示、岡川寧夫(58

六、堀内 博——一九八三—仙台市

氏名や現住所の記載されておられ

(35) 伊藤仁祐、清水

(33) 児玉三男 39

● (28) 萩原 改操

御遺族様より電話報告

昭和五三年一月十日

の期の同期生や直接本人からの連

及び(現住所)の分明した方々が

(48) 古畑正明、有吉里杂、土屋

付記・外に同窓生の方々より

(49) 原田英男、

三一二一二〇三、福沢英次一千〇 一十一七五一板橋区高島平八一三 阿久津 義雄一一一四 五一大 田区 狭山市人間川二十十二、(53)

ープあさ北二〇三号(計五三名)

住所分明

局へお知らせ下さい、乞御協力。

左記の諸氏について住所お分り

(40) 小林郷司氏より電話報告

めていただいた方も含みます (以上は、(5)年度以降分を納

塚市花水台三二一二二、(50)宮

池田寛之、半田興一郎、山辺俊

方々でしたので、本号には除

恒夫、矢島智、矢島

(33) 柳沢浩!

昭和五十三年六月以降、次の諸

峰村干徳、村上信三、山崎延秋、

据 淳、

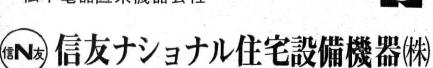
清水貞吾

24 7 操一十一八三一府中

**舎思一、与良正敏、水沢昭** 

本社

松下電器直系機器会社



一 住宅冷暖房・ ビル空調等何でもご相談下さいー

品川区大崎5-1-11 ☎ (493) 1811(代) 第2営業部長 町島正敏(55期)



● (24) 小林 運美

(21) 松平忠久氏より文書報告

電埼 話(四八七(94) 一一四四(代表)

51 期 弘

院理

岡

田